

# 社会科学習指導研究委員会

## 一 テーマ

子どもが社会的事象を自分事として追究し、多面的・多角的に考察するための指導と支援のあり方

## 二 テーマ設定の理由

児童生徒が社会科における基礎的・基本的な知識や技能を身につけ、社会的な見方・考え方を働かせた思考力や判断力、表現力をつけるためには、児童生徒が会う社会的事象を自分事として追究し、様々な視点から多面的・多角的に考察することが必要となる。そのためにはどのような支援が必要か、1年を通して追究したいと考えた。また、今年度からタブレット端末が各校に導入され、本格的に運用されるようになった。タブレット端末をどのように活用すれば、児童生徒がより社会的事象を自分事としてとらえるようになるかを追究したいと考え、本テーマを設定した。

## 三 研究の経過

本年度は、上田市立西小学校の研究授業と、教育課程研究協議会における午後の部で、タブレット端末を活用した実践を学び、社会科の授業において児童生徒が社会的事象を自分事としてとらえられるようにするためにタブレット端末がどんな役割を果たすのかを研究する予定であった。

しかし、西小学校の研究授業は行うことができたものの、新型コロナウイルス感染拡大により、教育課程研究協議会午後の部は行われなかった。

そこで、西小学校の実践から、今年度の成果をまとめた。

## 四 研究の成果と課題

(1) 単元名 小学4年「ごみのしよりと利用」

(2) 授業の内容

### 社会科学習指導案

1 日 時	令和3年7月8日(木)
2 単 元 名	住みよいくらしをつくる「水はどこから」
3 授業学級	4年3組 男子12名 女子15名 計27名
4 授 業 者	畔上 洋太 教諭
5 授業会場	4年3組教室
6 指 導 者	北信教育事務所 内川 哲 指導主事

### I 全校研究テーマ

主体的に学び、自分の考えを表現する子どもの育成

### II 社会科部会研究テーマ

自分事として追究し、多角的に考え、自己の考えをのびのびと表現する子どもの育成

### Ⅲ テーマ設定の理由

本校の子どもたちは、生活と身近であったり具体的にイメージしやすかったり学習を進める中で社会的事象との関わりを見出せたりしたときに、自分事として意欲的に学習に向かう姿が見られる。また、社会的事象が様々な要因や人々によって成り立っていることを知ったり見出したりしたとき、多角的に追究する姿が見られる。自分事として捉え追究することで、社会的事象に具体的なイメージをもち、友との関わりや全体の話し合いの場面で自己の考えをのびのびと表現する姿が見られる。

#### 【自分事として追究する姿】

- ・ 4年生：「地震からくらしを守る」

自分の家の地震に対する備えを知り、長野県で起きた地震の被害の大きさに危機感を持ち、「改めて取り組んでみようと思った。」と、自分事として捉えることができた。

- ・ 6年生：「わたしたちの生活と政治」

学習を進める中で事実に対する驚きや納得、社会事象と自分との関わりが見出せたとき「裁判員制度で、自分も選ばれるかと思うとわくわくする」「赤ちゃんも、生まれたときから基本的人権をもっている。自分にも権利があった。」と、自分事として捉えることができた。

#### 【多角的に考える姿】

- ・ 4年生：「自然災害から暮らしを守る」

災害が起きた場所の地形図から「土砂崩れは雨と山の斜面が関係している。」「風水害は雨で川の水が多くなったことと低い土地が関係している。」と、多角的に捉えることができた。

#### 【のびのびと表現する姿】

- ・ 5年生：「低い土地のくらし」

「自分がその土地に住むとしたらどうするか。」の問いに対して、水害が起こらないようにする工夫と水害が起こってしまった場合を想定した工夫について、自分の思いや考えを自由にワークシートに書き、班や学級全体に広める姿が見られた。

一方で、生活との関わりが見出せなかったり、具体的にイメージしづらかったりなど、社会的事象を自分事として捉えられないときには、受け身的な学習になり、表現することに萎縮してしまう子どもの姿も見られる。

そこで、このような子どもたちに、具体的にイメージできる資料の提示や地域教材の活用、追究したいと感じる課題の設定、人との関わりなどを通して学習意欲を高め、自分事として追究することができるようにすること。そして、様々な角度から社会的事象を捉えたり考えたりする力を育成することが大切であると考え。また、友との関わりを通して、自分の考えを明確にする場づくりや、ICT 機器やホワイトボードなどの教具を使ったグループ学習を充実させることで、考えを伝え合ったりまとめを書いたりする表現への意欲を高めることも大切であると考え。

以上のことから本研究テーマを設定した。

### Ⅳ 研究の視点

本部会では、問題解決の過程に向けて以下のように考えた。

## 1 学習を自分事として追究する

### 【自分との関わりを実感できる社会的事象との出会い】

- ・具体的にイメージできる資料の提示。
- ・地域教材の活用。
- ・追究したいと感じる課題の設定。

### 【社会的事象に対する捉え】

- ・社会的事象に対して「驚き」「納得」「意外性」を実感し、更なる追究へ。

### 【人との関わりを大切にする社会見学】

- ・施設の見学とともに、働く人と触れ合いにより、働く人の思いを感じ取る。
- ・予想との違いや新たな疑問を考え合い、自分たちの答えを見つける。

## 2 多角的に考える

### 【様々な立場に立つ】

- ・比較したり関連づけたりすることで、社会的事象は様々な要因や人々によって成り立っていることを実感する。

### 【複数の要因が読み取れる資料】

- ・複数の要因を、比較したり関連づけたりして資料を読み取る。

### 【グループ学習】

- ・友と考えを伝え合い、共通点や相違点を確認し、考えを深める。

## 3 主体的にのびのびと表現する

### 【グループ学習】

- ・友と考えを伝え合い、共通点や相違点を確認し、自信をもったり深めたりする。
- ・比較したりまとめたりすることで、考えを深める。

### 【自信をもって考えを表現する】

- ・友と考えを伝え合い、共通点を実感し、自分の考えに自信をもつ。
- ・全体追究の前に少人数で話し合い、考えをまとめることで、自信をもって発表する。

### 【ICT 機器やホワイトボードなどの教具の活用】

- ・資料を見せながら発表することで、発する側も受け取る側も、理解を深める。

## V 学習指導案

### 1 単元名「住みよいくらしをつくる 水はどこから」(東京書籍 楽しい社会4年)

### 2 単元の目標

生活に使われている水に関心をもち、飲料水の確保及び排水処理に関わる対策や事業について追究する活動を通して、飲料水を供給する・排水を処理する事業は、安全で、安定的に供給・排出する仕組みがつくられ、計画的に改善が進められており、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを考え、理解するとともに、水を大切にしていこうとする態度を養う。

### 3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①供給の仕組みや経路、県内外の人々の協力などについて見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、飲料水の供給のための事業の様子を理解している。</p> <p>②調べたことを白地図や図表、文などにまとめ、飲料水を供給する事業は、安全で安定的に供給できるように進められていることや、地域の人々との健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解している。</p>	<p>①供給の仕組みや経路、県内外の人々の協力などに着目して、問いを見出し、飲料水供給のための事業の様子について考え表現している。</p> <p>②飲料水の供給のための事業に見られる仕組みや人々の協力関係と地域の人々の健康や生活環境を関連付け、飲料水の供給のための事業の果たす役割を考えたり、学習したことを基に、節水や水を汚さないために自分たちができることを考えたり選択・判断したりして表現している。</p>	<p>①飲料水を供給する事業について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。</p> <p>②学習したことを基に、節水や水を汚さないために自分たちが協力できることを考えようとしている。</p>

### 4 単元展開

	学習内容（子どもの意識）	評価
第1時	私たちは、水をどのように使っているのでしょうか？	知①
第2時	私たちが使う水はどこから送られてくるかを考え、学習問題をつくろう。	思①
第3、4時	浄水場では、水をどのようにきれいにしているのでしょうか？	知①
第5、6時	浄水場では、安全できれいな水をつくるために、どのようなことをしているのでしょうか？	思②
第7時	生活で使った後の水は、その後どうなるのでしょうか？	知①
第8時（本時）	下水処理場が使えなくなったら、どうになってしまうのだろう？	態②
第9時	使った水を流す時の注意を全校のみんなに伝えよう。	態②
第10時	ダムや森は、どのようなはたらきをしているのでしょうか？	知①
第11時	水はどのようにつくられ、送られてくるかまとめよう。	態①
第12時	限りある水を使い続けるために、自分たちができることを考えよう。	知②

### 5 本時の学習指導案

#### (1)主眼

下水処理場の仕組みを知った子どもたちが、下水処理場が使えなくなったらどうになってしまうのか考える場面で、下水処理場がないと使った水を川に流さなければならないことに着目し、使った水を川に流すとどんな困ったことが起きるのかを班で話し合ったり、過去に川に生活排水を流していたことで起きた被害の資料を見たりすることを通して、川に生活排水を流すと川や海に住む生き物や自分たちの生活に様々な被害が出ることや下水処理場の大切さが分かり、自分も可能な限り汚れた水を流さないようにしようとする意欲を高めることができる。

#### (2)本時の位置（全12時間の第8時）

前時：生活で使った後の水がどうなるかについて疑問をもち、下水処理場の仕組みについて調べた。  
 次時：使った水を流す時の注意を全校に伝える方法を考える。

(3)指導上の留意点

- ・話し合いが停滞している班のところへ机間巡視を行い、考える視点を示すようにする。
- ・資料は見やすいように、クロームブックでそれぞれ確認できるようにする。

(4) 展開

段階	学習内容	・予想される子どもの発言・つぶやき	○教師の指導・支援 ◆評価	時間	備考
課題把握	1 学習問題と自分たちの予想を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下水処理場は昔から使っているから、もしかして使えなくなってしまうこともあるのかな。</li> <li>・下水処理場が使えないと使った水が家や学校にどんどんたまっていってしまうね。</li> <li>・いっぱいになったら川に流すしかないのかな。</li> <li>・使った水をそのまま川へ流すのは良くないと思うんだけど、どんな困ることになるんだろう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○下水処理場は老朽化が進んできていること伝える。</li> <li>○下水処理場が使えなくなってしまうと、どうなるのか問いかけ、予想するように促す。</li> <li>○下水処理場が使えなくなると使った水をそのまま川に流すしかないことを確認し、学習課題を設定する。</li> </ul>	7	・学習カード
	<p>学習課題：使った水をそのまま川へ流すと、 どんな困ったことになるのか話し合ってみよう。</p>				
追究	2 個人で考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使った水を川へそのまま流すと、川がどんどん汚れていってしまうだろうな。</li> <li>・川が汚れると、生き物が住めなくなってしまうかもしれないな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習カードに自分の考えを書くように促す。</li> </ul>	2 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習カード</li> <li>・ホワイトボード</li> <li>・マーカー</li> <li>・クロームブック</li> <li>・ピン(2本)</li> <li>・紙</li> <li>・トイレットペーパー</li> </ul>
	3 班ごとに話し合いを行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・川に魚がいなくなると、釣りをしたり、川の魚を食べたりできなくなるかもしれないね。</li> <li>・この前川に蛍を見に行ったんだけど、その蛍もいなくなってしまうかもしれないよ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の考えを、班ごとに共有していきながら話し合うように促す。</li> <li>○班で出た意見をホワイトボードに書くように促す。</li> </ul>		
	4 話し合いの結果を全体で共有する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・川が臭くなって、川の近くの家の人が困ってしまう可能性もあるね。</li> <li>・使った水を川にそのまま流すと川が汚れて、困ることがたくさんあるね。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各班のホワイトボードを黒板に貼り、どんな意見が出たかを共有する。</li> </ul>	1 0	
	5 資料を見て確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下水処理場がなかったころは川に使った水をそのまま流していたのかな？</li> <li>・矢出沢川が昔はそんなに汚かったなんて知らなかった。</li> <li>・油や紙を流すと下水管が詰ったり、微生物に良くなかったりするんだ。</li> <li>・そういえばお母さんも油は水に流さず、新聞でとってゴミ箱に入れているな。</li> <li>・トイレットペーパーは水に溶けるけど、紙は全然水に溶けないんだね。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○過去に川に水を流していたことで起きた被害の資料を提示する。</li> <li>○汚れた水を家から流さないための取り組みについての資料を提示する。</li> <li>○紙とトイレットペーパーの水溶解実験を実演する。</li> </ul>		

ま と め	6 ふりか えりをす る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下水処理場が使えないと、川や海の生き物が住めなくなったり、自分たちが生活するのに困ったりすることが分かった。</li> <li>・下水処理場があるおかげで、川の水が汚れることなく、安心して使った水を流せているんだね。</li> <li>・下水処理場をこれからも使えるように、油や紙を流さないように気をつけたい。</li> <li>・全校のみんなにも使った水を流す時に注意することを伝えたいな。</li> </ul>	<p>○話し合ったことや、資料をみて考えたことをもとに、今日の授業で分かったことや感じたことを、記入するように促す。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>◆下水処理場の大切さが分かり、自分も可能な限り汚れた水を流さないようにしようとする意欲が高まったか。 (学習カード・発言・つぶや)</p> </div> <p>○次時にやりたいことを確認する。</p>	7 ・学習カード
-------------	---------------------	---	--	-------------

### (3) 成果と課題

#### ① 成果

タブレット端末の活用の仕方を示していただいた。今回の授業では、授業の中で各自の端末に Google ミートで下水の処理などの動画を流し、まとめを行った。こういう使い方があるのか、と、大きな気づきがあった。Google ミートで配信することで、全員が同じ時間に同じ情報を得ることができ、さらに活動を限定することができていた。この学びから、自分自身もタブレット端末を使い、Google スライドやジャムボードを使って実践を積み重ねることができた。

#### ② 課題

今年度は、コロナ禍の影響もあって実践に触れる機会が少なかったことから、タブレット端末の様々な活用法について学ぶことができなかった。もっといろいろなアプリがあり、いろいろな活用法があるはずである。これを学べなかったのが反省点であった。今後は、様々な研究授業や研修の機会をとらえ、タブレット端末を社会科の授業にどのように生かしていくことができるか、さらに研究を進めていきたい。

### 五 終わりに

コロナ禍の中、思うような活動ができず、残念であった。今後、この委員会の活動を通して、社会科の知見を広め、実践の知識と技能を磨いていけるように、さらに活動を続けていきたい。